

調査事項① 地域防災計画及び防災体制等の現状と課題について

近年頻発する地震・風水害等の自然災害に備えるため、坂祝町における地域防災計画の策定・改訂状況や、防災体制、訓練、備蓄品の整備状況等について現状を把握し、今後の防災力強化に向けた課題を明確にするとともに、地域住民の生命と財産を守るための実効性ある計画改訂や訓練体制、備蓄体制の在り方について検討・提言を行うことを目的とし調査した。



意見・要望

○地域防災計画の見直しの着実な実施

今後の全面改訂に向けて、国・県の動向（南海トラフ地震、能登半島地震対応など）を踏まえ、関係各課との連携を強化しながら確実な改訂を求める。

○防災マニュアル類との整合性確保

避難所運営マニュアル等の各種マニュアルとの内容整合が図られておらず、現場での混乱が懸念される。各避難所に誰でも設営対応できる「ファーストアクションマニュアル」等の整備を希望する。

○訓練の充実と拡充

実効性ある体制構築のために、住民・職員向け訓練をより実践的かつ継続的に実施するとともに、特に若手職員向けの講習を積極的に推進していただきたい。

○備蓄体制の柔軟な見直しと倉庫改修の早期対応

ニーズに応じた柔軟な備蓄品の更新・補充に加え、老朽化している備蓄倉庫の早期修繕を求める。計画的な更新と並行して、発電機・浄水器・飲料水タワー等の操作講習を職員間で実施することも望む。

○共助体制の強化と地域との連携促進

自主防災組織や自治会、消防団、地域ボランティアなどとの連携を一層強化し、地域防災力の底上げに向けた仕組みづくりを進めていただきたい。

調査事項② | 木曽川の森散策路の今後の活用について

坂祝町が有する自然資源「木曽川の森散策路」およびその周辺環境について、現状と課題を整理し、今後の持続可能な活用方針を明確にすることを目的とした調査を行った。



意見・要望

現時点では木曽川の森のPRは積極的に行われていないが、その主な理由はインフラ未整備（特にトイレや駐車場）のためであり、整備が伴わなければ情報発信や観光誘致も現実的には難しい。

国が進めているサイクリング事業や観光振興について、国・県の補助や制度支援が得られる可能性は現状では限定的であることが確認された。町単独、もしくは広域連携による主体的な取り組みが求められる。

町がこれまでに取得した土地の活用には、文化庁等の許認可が必要となる可能性があり、トイレ・アクセス道路・利用目的などを含めた全体計画の整備が不可欠である。部分的・場当たりの整備では認可が難しいと考えられる。

維持管理に関しては、現在の人員体制（町職員とボランティア）では限界があり、マンパワーの確保・拡充が今後の持続可能な利活用の鍵となる。特に定期的な除草・補修作業などの負担軽減が急務である。

木曽川の森を「何のために」「誰のために」活用するのかという明確な目的やビジョンがまだ不十分であり、今後の整備・事業展開にあたっては、目的設定と方向性の明確化が必要である。

木曽川の森の利活用は、単一課（産業建設課や企画課）で担うには範囲が広く、観光、環境、教育、防災など多角的な観点から、町全体での横断的な連携・協力体制（全庁的な取り組み）が不可欠である。

連携・協力体制

